

あの日の豊岡

豊岡北中学校二年

細間

真希

夕方から降り出した強く大粒の雨はしだいに雨音を増しながら豊岡の街をぬらしていく。今思うと、あんな恐ろしい出来事が起こるとは、思ってもいなかっただ。窓の向こうの世界は、雨がやむ様子はなく、ひたすら降っていた。テレビでは台風二十三号の情報と、豊岡の現地状況が交互に報道されるだけで、退屈だったのを覚えていられる。しかし、強い雨と共に風が吹き始めてから恐怖心が強まっていた。ふと、窓の外を見ると道路のみぞから雨水があふれ出していた。家族みんなで畳をおげ、水を確保する。と、市の防災無線が避難を促して下さいと流れた。しかし、道路には水が一面にあって身動きが出来なかった。仕方がなく二階にあがり、周りを見ていた。水はとてつもなく速く、あらゆるゴミや物と一緒に流れていく。庭全体が水びたしになっていった。たとっても怖かった。見たことのない景色に

私はどうすればいいか分からなかった。

翌日。昨日より水が増して庭全体が海のようになっていて、声が出なかった。でも、ボートで近所の人が大丈夫かと聞きに来た時は木ッとした。

あの大水害から一年がたつ。忘れてしまいたい思い出。でも忘れてはいけないことも山ほどある。台風二十三号は怖かった。でもたくさんの人からの励ましをもらった。災害から人と人とのつながりの大切さを学んだ。そ

の学んだことをこれから生活に生かしてい
きたい。